

各支店長・営農指導員殿

秋野菜に関する問い合わせが多くなっています。特に「ネコブ病」に関するものが多いので、紹介します。

根にコブが出来る症状は、菌によるものと、センチュウによるものがあります。トマトやウリ類、サツマイモなどはセンチュウによるものが多く、アブラナ科野菜（大根、白菜、キャベツ、ブロッコリー、カブ、コマツナなど）にできるコブは菌（カビの類）によるものが多い。特にハクサイ、カブが弱く、キャベツ、ブロッコリーにも良く発生する。ダイコンも罹病するが、根自体が太いため症状としてはあまり目立たない。

発生しやすい条件は、

- 1、前年発生した圃場。
- 2、前年発生した圃場を耕起した耕耘機を洗わずに、引き続き作業した圃場。
- 3、前年発生した圃場に接している圃場。
- 4、排水が良くない圃場（常に歩くところがジメジメしているようなところ）
- 5、石灰を施用する時間がなかったとか、土が締まるなどの懸念から石灰を施用しない、または石灰の施要量が少なく酸性化している圃場。
- 6、ネコブ病に侵されている野菜を入れた生ごみ堆肥や野菜残渣を入れた圃場
などです。ネコブ病は多湿条件下で、水によって移動しますので発生圃場の水下に当たる圃場も要注意です。

対策

- 1、圃場に余裕がある場合は、圃場を替えてください。
- 2、湿気やすい圃場は避ける。
- 3、ネコブ病が発生した圃場がある場合は、耕起作業後、機械を良く水洗いしておく。

同一圃場を使用する場合は、

- 4、石灰を十分に施用し、土壌 PH を 7.2 以上にする。（マグエースなど 1a 当たり 15 kg 以上・・・セルカだと 20kg 以上）
- 5、薬剤を施用する。（ネビジン粉剤、フロンサイド粉剤を 1a 当たり 3 kg 全面施用、耕起し良く土壌混和する。）
- 6、ネコブ病耐性品種を利用する。（CR 秋にしき、YCR 多恵、CR 里丸など、品種名の頭に CR という文字のある品種はネコブ病抵抗性である。）

なお、転炉滓（ミネカル）がネコブ病に効果があるかという問い合わせがあった。ミネカルにも石灰がかなり含有されており、多用で PH が上昇することによる効果とも考えられる。ミネカルのネコブ病に対する効果が、保証されているものではない。



簡易虫除け対策事例



アオムシにより食害された苗

キャベツネコブ病と発生圃場の状況



被害状況



キャベツ根こぶ病の腐敗

その他の依頼事例

ダイコンが次々と枯れてゆく。ハクサイの苗も大きくなならない。水は毎日やっている。病気が出ているのか？ という相談事例。

経過

(ダイコン) 前作はジャガイモでそこそこ出来ていたとのこと。肥料は「あさひ」で50㎡に5kg程度施用し、芽が出てからジェイエース粒剤を施用した。2~3日前から点々と枯れ始めて来た。昨年のダイコンは葉の付け根から腐るものが多かった。

(ハクサイ)・・・8月20日に播種したが大きくなならない。代わりにホームセンターで苗を買ってきて3日前に植えたが萎れて元気がないとのことであった。施肥、施薬はダイコンと同じであり、除草剤は使っていないとのこと、話を聞いている中では特に問題は無いようなので現地を調査した。

状況

- 1、畑の排水状況および碎土状態は見る限り問題はない。
- 2、畦表面には施用した肥料の粒とジェイエース粒剤が点々と見られた。水は今朝もやっており、ハクサイの株まわり、ダイコンの畦が湿っていた。
- 3、萎れたダイコンを抜いてみると、茎がシナシナになっており、自力で立っていられない。根には一部腐りが見られる根は一部腐りが見られた。
- 4、ハクサイ苗はポリポットに植えられており、葉は4~5枚程度になっているが濃緑色で小さい。ポットには固形30号とおぼしき大豆くらいの粒肥料が2~3粒置かれていた。
- 5、畑に3日前に植え付けられた苗は本葉7~8枚あるが、外葉2~3枚が枯れてきている。ハクサイを掘り上げて見ると根はもとの鉢土から伸び始めているが、地上部に比べてやや貧弱。なお、鉢土のまわりの土に白い粉のようなものが目立った。
- 6、ハクサイの枯れた葉、ダイコンの茎や葉にも病斑らしき物は見当たらない。

判断

下に整理した項目から、今回の事例は「肥えあたり」と思われた。

- 1、病斑が見られないのに萎れが来ている。
- 2、根の伸びが悪く、元気がない。
- 3、葉色が濃い。
- 4、除草剤は不使用、圃場排水に問題は無い。

原因推測にいたった点

水は毎日やっており、肥料は基準の倍程度で枯れこむレベルではないと思われませんが

- 1、肥料は畦を作ってから混和しており、表土付近に集中している。(表面に肥料が点々と見られる。)
 - 2、灌水はタンクで運んで手灌水でやっており、十分な水の量でない。
- 以上のため、土壌表面近くの肥料濃度は標準施肥で十分作土と混和された状態に比べてかなり高くなっている。(灌水量が少ないと、このところの高温乾燥で、溶けた肥料が濃縮されてしまう。)
- 3、ポット育苗についても、市販の育苗用土を使用しており、本来必要な肥料分は入ってる。更に6cmポット鉢に大粒の肥料2~3粒は多すぎる。このため生育がいじけ、苗が濃緑色となった。
 - 4、畑のハクサイ苗の鉢土まわりの白いものは植え穴に入れた肥料で、このため根が鉢土から出られず、高温乾燥状況の中で地上部を支えきれないで葉から枯れ始めてきたと考えられる。

対処

施用した肥料を取ることは出来ないので、十分な灌水を行い根周りの肥料濃度を下げてやるしかない。枯れてしまったところはスコップで下層土と良く混和し肥料濃度を薄めて苗を植えなおす。

一般的に家庭菜園においては、肥料を撒きすぎている傾向が見られます。これは「肥料を多く施すと、生育が良くなる。」という誤った考えによるものです。畑に入れた肥料は取り去ることは出来ないで、少なめにし、追肥で調整した方が無難です。野菜の生育が悪くなら、更に肥料をまきがちですが、とりあえず、水だけ与えて様子を見るのが原則です。